

自立と共生

第166号

令和8年9月7日（月）

いじめ防止ラウンドテーブル ～いじめについて本気で考える～

8月20日（木）、コミュタン福島において令和8年度いじめ防止ラウンドテーブルが開催されました。今年度、推進校となった南会津町立荒海中学校生徒会役員の4名が参加しました。

全体会では、これまでにいじめ防止について取り組んだ活動を紹介し、意見交流会では「いじめを見逃さないためにできることは」をテーマに話し合いました。「どの子どもにも、どの学校でも起こりうるもの」という意識をもち、いじめ問題に向き合う学校にするため、大切にしたいことや自分たちにできることは何かを活発に意見交換しました。



意見交換会では、「いじめを防止するためには、第三者（周囲）の意識を変えていくことが重要なのではないか」という意見が多数出されました。



いわき市立赤井中学校
本宮市立本宮第一中学校
も参加しました。

お疲れ様でした！
チーム荒海中



「いじめアンケート」～いじめ行為を生徒と共有～

いじめを見逃さないため、各学校では「いじめアンケート」を実施されていると思います。

只見高等学校では、アンケートと共にチェックシートを活用して、生徒と「いじめ行為」とはどういうものを共有するなど、いじめの早期発見と未然防止のための工夫をしています。

□ 仲間はずれ、集団による無視をされる。

- ・対象の子が来ると、その場からみんないなくなる。
- ・遊びやチームに入れない。
- ・席を離される。

□ 観衆・傍観者の意識

- ・観衆（周りのヤジ馬）が何もしないことは、加害者への「大きなYES」
- ・傍観者（見て見ぬふりをする人）が気付いているが何もしない、無関心は加害者への「小さなYES」

只見高等学校 第2回学校生活環境についてのアンケート一部抜粋

改善の意図 先生方の思い



単に被害の有無などを「ある・なし」で選ぶだけのチェックでは、生徒に慣れが生じてしまい、自身の生活を振り返るきっかけとして弱く感じていました。具体的な言動の例を挙げたチェックシートへと刷新し、生徒が「はっ」と気づきを得られる内容に改善しました。

いじめの被害の有無だけでなく「加害者」や「傍観者」の視点も盛り込んでいます。実際の場面に直面した際、生徒が一度立ち止まって考えられるようにするためです。自身の言動を振り返ることで認識のズレをなくし、今後の学校生活で互いに配慮し合える意識を育みたいと考えています。

困りごとを伝える手段としてアンケートは有効ですが、一方で「被害者と加害者」という二元論的な構造を固定化してしまう危うさもあります。そのため本シートは、単なる報告ツールにとどまらず「自分の行動はいじめに当たらないか」「自分や周囲の状況がいじめではないか」を生徒自らが能動的に確認・点検できる手段として位置付けています。

